

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>教育目標(丹後学園共通)</p> <p>「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広く視野と高い目標をもち、地域や社会とのつながりもつことができる力を育む教育の推進 ・ 丹後町への愛着と誇りをもち、将来の夢や希望に向けて力を伸ばし、新しいことにチャレンジする気持ちを育てる教育の推進 ・ 地域とともに歩む学校教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「探究的な学び」への授業改善に力を入れた。全学年で研究授業を行うなど、確かな学力の育成に向けて全教職員で取り組めた。ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図れた。引き続き、確かな学力の育成に向けて取組を推進する。 ・ 「安心・安全な学校づくり」を大切にし、不登校やいじめの未然防止等に努めたが、引き続き組織的に取り組む必要がある。 ・ 運動会やマラソン大会、小学校駅伝大会、大縄発表会等を実施することで、児童の主体性を育む取組を推進できた。「させる」のではなく、児童自らが作り上げるようにするために、「支える」ことを大切にしている指導を全教職員で進めた。 ・ 危険箇所、登下校の安全に関わる指導は、教職員で共有化し全校集会、学級内で指導を行い、けが防止につなげた。 ・ 学校便り、学級通信、各種お便り、ホームページの更新等により学校の取組や児童の様子をタイムリーに発信するなど情報発信を心掛け、家庭との連携を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「児童が学びの主体となる」「探究的な学び」を、ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」により具現化する。 ・ 3つの力「自分から〇〇する」「認め合う」「チャレンジする」をすべての教育活動の中で意識することで、学校教育目標の具現化と確かな学校組織力の向上を目指す。 ・ 「させる」指導から「支える」指導への共通確認の下、児童自身が教育活動を楽しみ主体的に行動できる教育環境を作り出す。 ・ 前回の学校再配置から7年が経過し、宇川小との適正配置を1年後に控えている。丹後町唯一の小学校となり町の中心部から山間部まで多様な環境にある児童が通うことになる。これまで以上に「安心・安全な学校・居場所づくり」を大切に、交流事業を通して親交を深められる学校運営に注力する。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	学校関係者評価
<p>学校教育指導の重点、 保幼小中一貫教育の</p> <p>教育課程 学習指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 丹後学園研究テーマである「子どもたちが主体的に学ぶ授業づくり～教師主導から子ども主体へ～」の下、確かな学力の育成を図る。 ・ 「学び合い」を通して、「わかる」「できる」を実感させ、「深い学び」につながる授業づくりを進める。 ・ 学習端末の効果的な活用方法について研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「探究的な学び」の充実を図るため、校内研修・研究授業等を効果的に実施する。 ・ ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る。 ・ 「自ら学び、認め合い、高め合う児童の育成」を目指して、教科の指導と生徒指導が一体化させた授業づくりを進める。 ・ 家庭学習の見直しを図り、確かな学力の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習端末を日常的に活用し、特にクラウドを介した学習スタイルや探究的な学びを手法とする主体的・対話的で深い学びを追究する全校的な授業改善の動きを推進できた。途中で端末を更新したが、スムーズに移行できタイピングスキルなどは飛躍的に向上している。 ○授業改善により一人一人が課題に向かうことができている半面、配慮を要する児童への手立てが追い付かない課題も見えてきている。 △情報モラルに関しての実態把握が難しく、SNS講演会などで啓発を続けているが、実態は分かりにくいところがあり、粘り強く指導を続ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業改善が進み、成果として児童の学びの向上が伺える。学習端末を活用する工夫が見られた。 ◇表出する課題に対する指導とともに、情報機器の活用能力・モラル指導が望まれる。 △グループでの学習の際、グループや会話が少なく感じた。学習端末使用の工夫が必要。 ◇体験や考え、読書の感想を発表する、日本文化に触れることなどを大切にしたい。

<p>生徒指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の実践上の4つの視点を踏まえた、就学前から中学校まで一貫した生徒指導を進める。 ・不登校、いじめの未然防止及び解消にむけた教育相談活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動や異年齢集団活動を通して、互いを認め合うことのできる望ましい人間関係を構築させる。 ・いじめ防止に向けて、生徒指導部を中心にアンテナを高くはり、情報を共有する中で、組織的に取組を進める。 ・不登校の解消・未然防止のために、丁寧なアセスメント（個・集団）や適切な支援を組織的に展開する。 ・校内関係分掌会議において多面的に学校課題を整理分析し、安心して過ごせる学校（居場所）づくりとなるよう取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「つながり」や「絆」をキーワードにした児童会本部を中心とした異年齢チームでの活動で全校が仲を深めたり関わり合いをもったりできた。その中で自分の役割を果たす力を伸ばしたり、高学年リーダーとしての責任感なども醸成したりすることができた。 ○学級でのトラブルや困りごとを日常的に交流する時間を定期的にもつことで、子どもたちに対し常にアンテナを高く持って指導にあたり、事象に対する組織的な動きができるようになった。 ○いじめ事象に対して全教職員で課題を共有し、指導については複数名で対応できた。 △担任を中心とした家庭への働きかけが功を奏し、該当児童（2名中1名）が学校に向かえる日が増えてきている。何が正解かわからない中ではあるが、今後も粘り強く働きかけを続け、完全解消を目指す。また、学校での困り感解消のための体制を構築する。 △自己中心的な行動判断から、学級内でのトラブルや人間関係のこじれが解消できにくい。着実な生徒指導の積み上げにより、誰もが安心安全に過ごせる学校(学級)づくりを、第一の学校課題とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的な全校活動を通して高学年が育ち、学校全体の雰囲気がよくなっている。 ◇全校の高まりと同時に個々への関わりや心配りにより、課題への対応が後手とならないようにする必要がある。 ○年間を通して異年齢活動が行われていた。協力・助け合い場面が見られた。 ○子ども達の普段の頑張りや評価を学校から保護者に返すことで、学校と家庭との信頼関係構築につながった。 △不登校児童・休みがちな子どもが数名いる状況が気になった。 ◇地域の人と話す機会が持てたらどうか。（特に行事でなくても）
<p>健康・安全</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上と基本的な生活習慣づくり ・安全に生活するための知識と判断力を身につけさせる。 ・将来の夢や希望に向かって何事にも粘り強く取り組むことのできるこころとからだを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科の授業や体力づくりの取組、外遊びの奨励を行い、健康に過ごせる体力づくりを行い、体力の向上を図る。また望ましい生活習慣を身につけさせる。 ・日常の学校生活の中で健康に関する取組を継続して行い、健康に関する知識と判断力を身につけさせる。 ・キャリアパスポートなどの活用で、自分の将来に目を向けさせ、目標に向かって日々努力する大切さに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣の確立について、家庭との連携を重視しつつ、それをベースにした体力づくりを推進できた。日常的な体育指導や外遊びの推奨、マラソンの取組などを進め、時に熱中症などの健康被害がないよう啓発や指導を徹底できた。 ○キャリアパスポートを年間を通じて活用し、児童が自分の生活を振り返り、よりよい自分に向かって成長できるような機会を設けた。 △人権意識を向上を目指した人権旬間・月間の取組を推進し、学年の目当てに沿った人権教育を推進できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇キャリアスポーツの有効・継続的な活用を、今後積み重ねていく必要がある。 ◇健康・体力づくりにおいては、登下校の熱中症対策を含めて、柔軟な対応と指導の難しさを感じました。 ◇自転車に乗るときのルールについての指導の徹底。 ○校内は整理整頓・清掃が行き届き、清潔感が感じられた。

特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育的ニーズや特性に応じた指導・支援を計画的・組織的に推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内教育支援委員会を中心にした組織的で継続的な支援体制と見守り活動を、関係機関との連携を密に取りながら行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「一人も取り残さない教育」推進のため、教頭による校内研修で職員の意識の向上を図ってきた。組織的な動きの中で困り感を感じている児童、配慮を要する児童についてのアセスメントを行い、適切な学びの場を確保するとともに、保護者との懇談を通して家庭との連携を図ることができた。 △SC・SSWとの連携、心の居場所相談員などを効果的に活用する取組について、次年度明確な位置づけをして取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> △近年の個に応じた指導は、多様性が加わり、大変難しくなってきた。どの子どもが学校生活が満足できるものとなるよう、今後も取り組んでいきたい。 ○きめ細やかな通級指導で特性に合わせて支援をされていると感じた。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧で分かりやすい情報発信を行う。 ・PTA・地域の関係諸機関等と連携した取組を強化する。 ・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図る。 ・宇川小との適正配置に向けた児童交流・教育課程編成を計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子をタイムリーに積極的に発信する。 ・PTAをはじめ関係諸機関等との連絡を密に取り、協働体制をとる。 ・地域の人材・学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。 ・学校づくり準備協議会内の小委員会の活動を敵的継続的に行い、適正配置に対する不安の解消に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページについては、定期的な更新を心掛け、学校教育の様子について発信できた。 ○PTAとの連携により、学校行事の開催にあたって多くの支援を頂けた。また、PTA行事により子どもたちと家庭と学校とが手を取り合う機会を設けていただけた。 ○学校支援ボランティアさんには大変お世話になり学校教育を大いに支援していただけた。学校職員だけでは手が回らないところをサポートしていただけることに大いに感謝している。 ○令和8年4月の適正配置に向けて、例年以上の連携事業を計画した。交流を重ねるたびに「不安が少なくなった」「来年が楽しみになった」という感想が聞けるようになった。教育課程編成や備品の移動など準備を進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○宇川小との交流が丁寧に行われ来年度からのスタートがスムーズに行えるようよかった。 ○ホームページでより学校の様子を発信されていた。 ○地域との関りとして、様々なボランティアの方が活動されており、開かれた学校運営をされていると感じた。 ○適正配置においては、学校全体的に様々な工夫のある交流ができていた。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・「安心・安全な学級・学校づくり」を大切にする。 ・「自ら学び、認め合い、高め合う児童の育成」を目指して、教科の指導と生徒指導が一体化させた授業づくりを進める。 ・「探究的な学び」やICTを効果的に活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の更なる研究推進を図る。 ・「不登校の解消」、「誰一人取り残さない教育」について、組織的な動きを持続可能な形で構築する。 ・適正配置となった2校の学校文化のスムーズな融和を目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> 今、必要な学校教育、学校で身につけさせたい力とは何か。家庭・地域の教育力が低下する中、学校教育が担う役割とは何か。 	